令和８年度　　大津高等学校　学校評価

本年度の重点目標

・基礎的・基本的な学力を定着させる中で、学習意欲を向上させ、より高い進路希望を実現できる知力を育成する。
・部活動、特別活動に力点を置き、人権学習や体験的な学習等を通じて道徳教育を推進することで、思いやりを育み、心豊かで良識ある生徒を育成する。
・開かれた学校、信頼される学校づくりのために家庭、地域との連携を強める。

領　域	重　点　評　価　項　目	中間評価(10月)	総合評価（３月）	
		自己評価	自己評価	学校関係者評価
1　学校経営	保護者との連携を図りながら、教職員は積極的・意欲的に教育活動に取り組んでいる。	A		
	学校の教育目標達成のために、組織が効率的に機能し、保護者への説明責任を果たしている。	A		
	体罰に対する教員の意識改革を図り、体罰の未然防止に恒常的に取り組んでいる。	A		
2　学習指導	学習習慣の確立と家庭学習の充実に向けたきめ細やかな指導を行っている。	A		
	ICT機器を適切に活用した学習指導が行われている。	A		
	思考力・判断力・表現力を高める学習指導を行い適切に評価できている。	A		
3　生徒指導	基本的な生活習慣の確立に向けた効果的な生徒指導ができている。	A		
	生徒による主体的な生徒会活動が推進できるよう協力体制ができている。	A		
	いじめの未然防止ならびにいじめ問題対応に向けて、学校全体で取り組んでいる。	A		
4　進路指導	三年間を見通した進路計画が立てられ、進路意識を高揚する指導が適切な時期に行われている。	A		
	進路に関する情報や資料が適切に収集され、生徒によく活用されている。	A		
5　特別活動等	HR活動は、生徒の学習や進路選択に有意義なものになっている。	A		
	教職員の共通理解と協力体制の下、部活動の活性化が図られている。	A		
6　学校図書館	読書習慣を身に付けるために、図書に関する情報を適切に提供しながら図書館の充実を図る。	A		
	特別企画を行ったり、図書・視聴覚教材を活用するなど施設が有効利用されている。	A		
7　保健・安全指導	保健室を中心に、生徒の事故や保健相談に対し適切な対応ができている。	A		
	ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ研修の実施や教育相談体制の整備により、様々な事例に対して適切に対応できている。	A		
8　人権教育	外部講師を招聘し生徒の人権意識を効果的に高める人権教育が行われている。	A		
	人権意識を深め、民主的な集団づくりに取り組んでいる。	A		
9　環境教育	各教科において、誰一人取り残さないSDGsの視点を活かした学習の可能性を探るとともに、実践に努めている。	A		
	環境問題を視野に入れた教育活動を積極的に行っている。	B		
10　事務・管理	個人情報の管理を含め、適切な文書管理ができている。	A		
	教育活動の充実をはかるため、学習環境の整備に努めている。	A		
11　その他 学校の取組	機会あるごとに、公開授業や体験入学を実施し、開かれた学校づくりを積極的にすすめている。	A		
	普通科・家庭科学科の在り方を探りながら特色ある教育活動に取り組んでいる。	A		

（注）・評価表の見方：　６月　学校の教育目標に基づいた重点評価項目の公表
１０月　中間評価（自己評価）の公表（８月までの教育活動に対する中間評価）ＡＢＣＤの４段階評価で示す。
３月　総合評価（自己評価・学校関係者評価）の公表（年間の教育活動に対する総合評価）ＡＢＣＤの４段階で示す。
・自己評価は教職員による評価。学校関係者評価は、保護者・学校評議員等より構成された評価委員会等が自己評価の結果について評価することを基本として行う評価。
・ＡＢＣＤの基準については、評価項目の内容が、十分に達成できた場合（達成度80%以上）はA、おおむね達成できた場合（達成度60%以上80%まで）はB、
あまり達成できていない場合（達成度40%以上60%まで）はC、達成できていない場合（達成度40%未満）はDとする。

学校のＵＲＬ：https://www.ohtsu-h.shiga-ec.ed.jp/